

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 2 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、ご参照の上、防除指導方よろしくお願
いいたします。

記

情報の内容 クワゴマダラヒトリの多発生と果樹での防除対策について

対象作物：かんきつ類、かき、もも、ぶどう、なし、うめ、キウイフルーツ等 果樹全般

1 発生状況

本年、県下全域で、かんきつやキウイフルーツ等の新芽が毛虫類の一種であるクワゴマダラ
ヒトリの幼虫により食害される事例が多く見られている。本種の被害は5月中旬頃まで続いた
ため、今後、新芽の伸長、着蕾・開花期の被害の増加が懸念される。

2 発生生態と被害の特徴

幼虫は前年の9月頃から発生し、7 齢を経過する。3 齢幼虫期までは葉上に糸を吐いてテン
ト状の巣網内で集団になり、産卵植物の葉が落ちるまで食害を続ける（写真 1）。越冬は 4～5
齢幼虫で落葉下や樹木の地際にて行う。越冬後は分散し、雑草や低樹高の草木の新芽を加害し
ながら果樹園に移動し、5 月中旬頃まで加害が続く。特に下草の多い果樹園では裸地園に比べ
発生が多い傾向にある。なお、成虫は年 1 回発生（7 月下旬～9 月中旬頃）し、特定の産卵樹
となるアカメガシワ（写真 2）、ニセアカシヤ、カラスノサンショウなどの葉に数千単位の卵塊
を産み、卵は約 10 日でふ化する。

3 今後の注意と防除対策

- （1）幼虫の早期発見に努め、見つけ次第捕殺する。本種の「毛」は無毒である。
- （2）幼虫の侵入は繰り返し起こるので、発生の多い園地では、発生に応じて数回の薬剤散
布を行う。特に苗木や高接ぎ樹での被害に注意する。他害虫（アブラムシ等）も含めた
防除の際は、本種にも効果のある薬剤を選択する（表 1、2 を参照）。
- （3）アカメガシワ等の産卵樹が近くにある果樹園では、幼虫の侵入が繰り返し起こるので
注意する。
- （4）園内の下草の除草は、園地への侵入前では被害軽減に効果的ではあるが、侵入後では
樹上に移動し被害が拡大することがあるので注意する。

表1 クワゴマダラヒトリ又はケムシ類に登録のある主要殺虫剤(愛媛県農作物病害虫防除指針より農薬を選択)

農薬名	かんきつ (温州みかん除く)	温州みかん	かき	もも	なし	ぶどう	うめ	果樹類
オリオン水和剤40	ケムシ類 1000倍 (14日/5回)		ケムシ類 1000倍 (21日/3回)	—	ケムシ類 1000倍 (3日/2回)	ケムシ類 1000倍 (45日/2回)	ケムシ類 1000倍 (7日/3回)	—
ダズバン乳剤40	クワゴマダラヒトリ幼虫 1000倍 60日/1回	クワゴマダラヒトリ幼虫 1000倍 60日/1回	—	—	—	—	—	—
ロディー乳剤	ケムシ類 2000倍 (7日/4回)	—	—	—	—	—	—	—
フェニックスフロアブル	ケムシ類 4000倍 (前日/2回)		ケムシ類 4000倍 (7日/2回)	ケムシ類 4000倍 (前日/2回)	ケムシ類 4000倍 (前日/2回)	ケムシ類 4000倍 (14日/2回)	ケムシ類 4000倍 (前日/2回)	—
エクシレルSE	ケムシ類 5000倍 (前日/3回)		—	ケムシ類 4000倍 (前日/3回)	—	—	—	—
デルフィン顆粒水和剤(BT剤)	—	—	—	—	—	—	—	ケムシ類 1000倍(発生期、但し収穫前日まで)
ファイスター顆粒水和剤(BT剤)	—	—	—	—	—	—	—	ケムシ類 1000倍(発生期、但し収穫前日まで)

毛虫類に登録のある薬剤はクワゴマダラヒトリ対象で使用可。



写真1 幼虫による集団加害 (秋季)



写真2 産卵樹のアカメガシロ



写真3 クワゴマダラヒトリの老齢幼虫



写真4 クワゴマダラヒトリの成虫と卵塊

【参考】

表2 各種薬剤のクワゴマダラヒトリ幼虫に対する防除効果

薬剤名	希釈倍数	補正死亡率 (%) (散布6日後)
オリオン水和剤40	1,000	100
ロディー乳剤	2,000	100
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	51.9
スプラサイド乳剤40	1,500	55.6
アドマイヤー顆粒水和剤	4,000	25.9
モスピラン水溶剤	4,000	22.2

注1) 2004年愛媛県果樹研究センター試験成績抜粋。

注2) 試験方法：虫体浸漬(5秒)、1区25~30頭/剤

注3) 供試虫は、今治市のカンキツ園より採集した老齢幼虫。